

スライディングボードを使った移乗を試行したIさん

(今回、研究を行った施設で「スライディングボードをぜひ試行してみたい」というフロア介護職からの声があり、シーティング対象以外に、8事例目としてとりくんだ。ここに経過を報告する。

【事例の概要】

Iさん

86歳 女性

移乗介助の際に足が車椅子にぶつかるためか、以前から左足のすねに打ちみや傷がよくできていた。手でベッド柵や車椅子のアームレストをつかんでなかなか離そうとしないこともあり、そのことも一因。・・・中足移乗のためか？重いから？身体的な特徴から安全に介助するにあたって、何とかしなければ・・・というフロア介護職の思いがあった。

【援助経過】

11月中旬、施設を訪問し、現場でスライディングボードの使い方を3名の介護職に伝授し、その場で使い方を練習してもらった。スライディングボードを使うには、アームレストがはずれる車椅子でなければならないので、研究会から「スペリア」さくらをレンタルして3ヶ月間使ってもらうこととした。

スライディングボードの使用方法を説明した。

3名の介護職がフロア介護職全員に伝え、スライディングボードでの移乗を試みた。

フットレストを上げ、アームレストを外し、スライディングボードを敷きこんで移乗する方法を2週間～1ヶ月ほど継続した。

職員の感想：「持ち上げることなくそのままいけるので楽。」「アームレストを外すことで、本人がアームレストをつかむことなく介助者に頼ってくれるので楽。」とのこと。特に、腰痛持ちの職員がスライディングボードを気に入り、愛用していた。

しばらくボードを使っただけの移乗や座位移乗を試みたが、現在は、スライディングボードは使わず、フットレストを外して全介助という形に落ち着く。「なぜスライディングボードを使わなくなったのか」と質問してみると「ボードを敷きこむことや、アームレストを外す手間がかかることなどから、フットレストだけを上げて持ち上げる形で介助している。」「フットレストだけを外して全介助のほうが、簡単で早い。」という返事であった。

フットレストのシングアウトは必要。

フットレストを外せることで介助しやすく楽になり、効果は大きい。

レンタル期間終了後は、施設でフットレストのはずれる車椅子を購入する方向だという。

事例に学んだこと

スライディングボードをはじめて見る職員はこんな道具があったのかと驚き、楽に移乗できると喜んだ。介護現場では立てない人を抱きかかえて車椅子へ移す「立位移乗」が多く行われていて、「座位移乗」についてはよく知られていない現状にある。スライディングボードを使うためには、まずボードの存在を知ること、アームレストのはずれる車椅子であること、が最低条件である。もし、ベッドがハイロー電動機能付であれば最もよい。アームレストの脱却が容易でないと、数十人を一気に移乗させる、施設介護の現場ではその時間さえもどかしく感じるようである。単にボードを使った移乗ということではなく、介護職の健康を守る側面を知識として伝えるべきだったのではないかと感じている。そうすれば、フロア介護職の意識が変わり、せっかくスライディングボードを使い始めた現場が元の立位移乗に戻ってしまうことはなかっただろうに・・・と残念である。